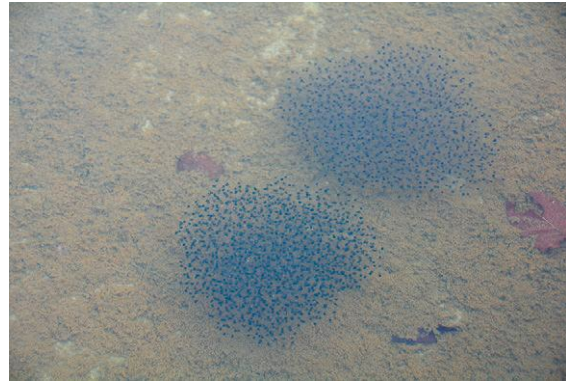


ヤマアカガエル (学名: *Rana ornativentris*) (文 吉岡義雄)



▲ 成体。森林内のやや薄暗い林床で見られる



▲ 卵塊。日当たりが良く、流れの無い浅い水中に産み付けられる。水田や湿地のほか、側溝でも見られる事がある

多くのカエルは春が訪れて冬眠から目覚めると、水辺に集まって繁殖を行います。只見町内でも5月頃になるとあちこちの水辺でカエルの鳴き声を聞くことができます。中には冬の寒さが残る4月に繁殖を始めるカエルもいます。それがこのヤマアカガエルです。繁殖を行う水温は約6℃と低く、関東の平地では2月から3月上旬、九州などの暖かい地域では1月に繁殖を始めます。このような季節は餌となる生き物が活動しておらず、カエルの活動にも適しません。そのため、繁殖を終えたヤマアカガエルは再び泥の中に潜り、暖かい季節がくるまで春眠します。

それにしても、何故わざわざ冬眠を中断してまで繁殖するのでしょうか？これは、ヤマアカガエルが属するアカガエルの仲間が低温に適応した北方系のカエルであるためと考えられています。特に卵は体温調節機能に乏しく、高い水温が苦手です。加えて、ヤマアカガエルが好んで産卵する水田は、気温や日射の影響で水温が変動しやすい環境です。そのため、卵が高温にさらされないよう、冬から早春の寒い季節に繁殖をする必要があるのです。

只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展アーカイブ「只見の春植物とその生活史」

会 期：2021年4月3日(土)～2021年5月31日(月)
場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー